

富山県感染症発生動向速報

(2026 年第 33 週分・8 月 10 日～8 月 16 日)

■今週の主な動向

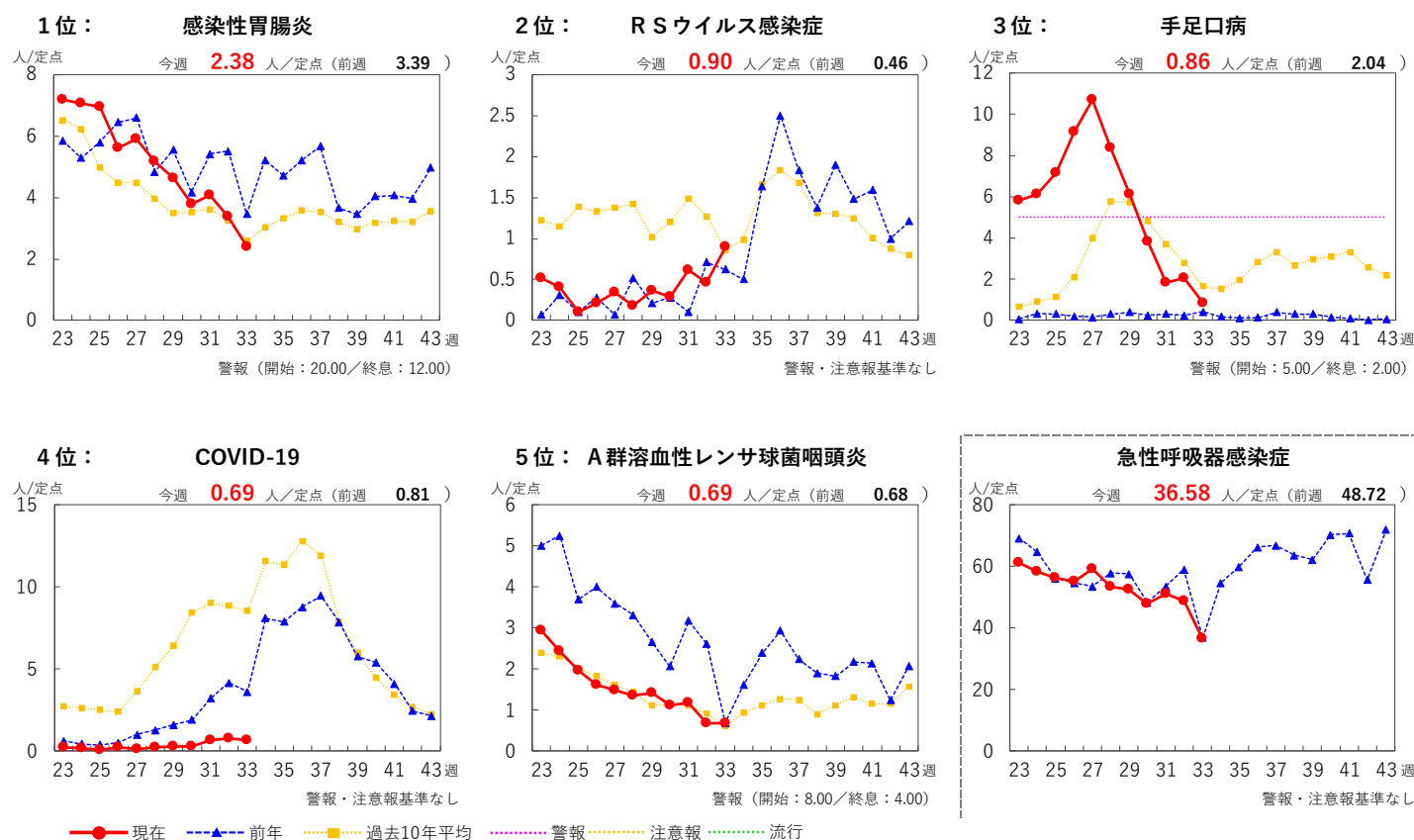
○腸管出血性大腸菌感染症が今週 5 件（2026 年累計 17 件）報告されました。

腸管出血性大腸菌感染症は、例年夏季に報告数が多い傾向があります。予防には、生肉や加熱が不十分な肉の喫食を避けること、生肉に触れた手や調理器具は洗浄・消毒することが重要です。（今週のインフォメーション参照）

○各定点報告の感染症は先週から概ね減少しました。お盆期間に伴う定点医療機関の休診により、流行を過小評価している可能性があります。

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症（第 33 週・8/10～8/16）



厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 2 件（①70 歳代、男性 ②80 歳代、男性）

三類感染症 細菌性赤痢 1 件（30 歳代、男性、*S.flexneri*, B 群）

腸管出血性大腸菌感染症 5 件（①10 歳未満、女性 ②40 歳代、男性

③40 歳代、女性 ④50 歳代、男性 ⑤70 歳代、男性

①④⑤全て O157、VT2 ②③共に O157、VT1VT2）

五類感染症 梅毒 1 件（20 歳代、男性、早期顕症梅毒Ⅱ期）





夏季は特に注意！ 腸管出血性大腸菌感染症

《 インフォメーション 》

● 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症は、ベロ毒素（VT）を産生する EHEC を原因とする感染症です。EHEC は牛などの反芻（はんすう）動物に保菌されていることが多く、これらの動物の糞便を介し肉類やその他の食品、井戸水などを汚染します。

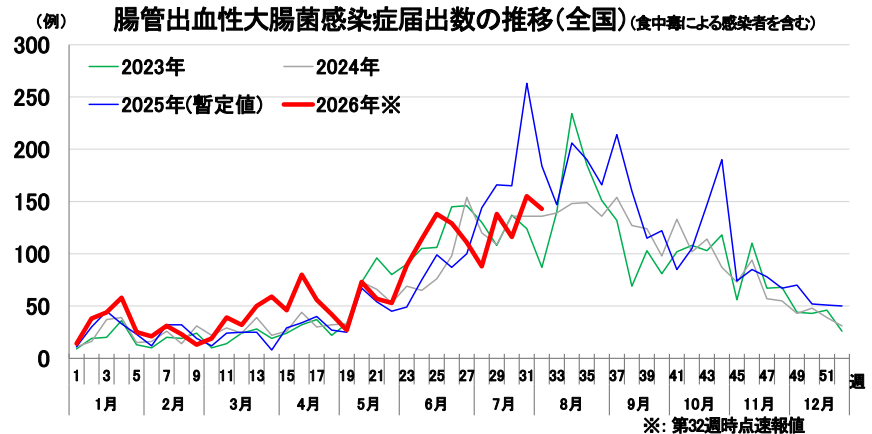
汚染された食品を生のまま、もしくは加熱不十分な状態で喫食すると、3～5 日後に腹痛、水様性の下痢や血便、さらに一部の患者では嘔吐や発熱などの症状も呈します。溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症など重篤な合併症を併発し、死亡する事例もあります。

全国では無症状病原体保有者を含む EHEC 感染例は例年 3,000～3,900 例でしたが、昨年は 4,358 例（暫定値）の報告がありました。どの年も夏季に報告数が多くなっています（図）。

富山県では今週（第 33 週）5 例（2026 年累計 17 例）が報告されています（[富山県感染症情報センター／腸管出血性大腸菌感染症](#)）。

EHEC は少量の菌（10～100 個程度）でも感染するとされており（[IASR 2026:47\(5\):75-79](#)）、感染者は無症状であっても患者と同様に菌を排出しています。家庭や保育園・介護施設等においては、感染者の糞便で汚染された手指などを介して起こるヒトからヒトへの二次感染に注意が必要です。免疫力が弱く重症化しやすい小児や妊婦、高齢者については特に注意が必要です。感染予防には、生肉や加熱が不十分な肉の喫食を避けること、調理する際の生肉の取り扱いに注意することが重要です。

夏季は気温や湿度が高く、細菌が増殖しやすい環境です。以下のことに注意し、感染予防に努めましょう。また、2023 年以降、韓国渡航後の EHEC 感染例が増加しており、約 7 割で牛生肉等の喫食歴が報告されています（[IASR 2026:47\(5\):88-89](#)）。海外でも生肉の喫食は避け、十分に加熱された食品を食べましょう。



- ① 調理の際（調理前後、肉等を取り扱った後など）、食事の前、トイレの後、感染者の世話をした後は石けんと流水で手を洗う
- ② 生肉やレバーなどの内臓肉は、内部まで十分に加熱（中心部の温度が 75℃で 1 分以上）してから食べる
- ③ まな板などの調理器具は、「肉用・魚用」と「野菜用」で使い分ける
- ④ 食材は調理までの間、低温（10℃以下）で保存する



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第33週 2026年8月10日～2026年8月16日）

分類	疾患	今週報告分（第33週）						累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
全数把握	二類感染症	結核			1		1	2	5	3	16	8	34	66
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く							5	1	6	6	21	39
	三類感染症	細菌性赤痢					1	1					1	1
		腸管出血性大腸菌感染症	1			2	2	5	3		6	2	6	17
	四類感染症	E型肝炎									1		1	2
		デング熱											1	1
		マラリア											2	2
		レジオネラ症							1	2	8	2	13	26
	五類感染症	急性脳炎							1				1	2
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	6	10
		後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）											1	1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		4	6
		侵襲性肺炎球菌感染症							2		7	2	5	16
		水痘（入院例）							1	1	2		3	7
		多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
		梅毒				1		1	5	2	9	1	15	32
		破傷風											1	1
		百日咳							1				7	8
		麻しん									4		4	8
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	173	129	540	192	722	1,756	9,625	8,745	33,337	9,273	42,026	103,006
			24.71	25.80	41.54	27.43	45.13	36.58						
		インフルエンザ	10	4	3	3	3	23	1,457	1,215	3,351	1,436	4,698	12,157
			1.43	0.80	0.23	0.43	0.19	0.48						
	小児科定点（29定点）	COVID-19	8	1	9	10	5	33	297	150	362	179	537	1,525
			1.14	0.20	0.69	1.43	0.31	0.69						
		RSウイルス感染症			13	6	7	26	29	11	179	37	135	391
					1.63	1.50	0.70	0.90						
		咽頭結膜熱			1			1	33	23	250	1	77	384
					0.13			0.03						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		6	1	12	20	155	201	1,412	229	1,335	3,332
			0.25		0.75	0.25	1.20	0.69						
		感染性胃腸炎	15	3	5	1	45	69	776	647	1,139	302	3,870	6,734
			3.75	1.00	0.63	0.25	4.50	2.38						
		水痘			1		1	2	3	17	45	9	110	184
					0.13		0.10	0.07						
		手足口病	2	3	10	3	7	25	37	176	720	112	1,018	2,063
			0.50	1.00	1.25	0.75	0.70	0.86						
		伝染性紅斑							8	3	26	11	13	61
		突発性発しん			3		4	7	7	22	108	25	117	279
					0.38		0.40	0.24						
		ヘルパンギーナ			3		2	5	18	46	71	17	152	304
				0.38		0.20	0.17							
	流行性耳下腺炎							3		5	4	8	20	
	眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎			1	1		2	9	2	15	3		29
				0.50	1.00		0.29							
基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											2	2	
	無菌性髄膜炎							2					2	
	マイコプラズマ肺炎					1	1	9		3	4	7	23	
						1.00	0.20							
入院サーベイランス（5定点）	クラミジア肺炎										2		2	
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									1	1		2	
COVID-19による入院患者	インフルエンザによる入院患者（※2）		1	1			2	55	42	50	40	102	289	
	COVID-19による入院患者	2	1			1	4	24	18	7	12	59	120	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考： <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/> ）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。